

学校名	川俣町立川俣中学校	校長名	高橋 友幸
住所	福島県伊達郡川俣町字宮ノ脇14番地	児童生徒数	364
TEL	024-566-4111	学級数	14
	ホームページアドレス		

「確かな学力」の向上を目指した教科指導の工夫

1 少人数指導の計画

【目指す生徒像】

探究心・知的好奇心をもち、自ら主体的に調べ学び、自己を高めていける生徒

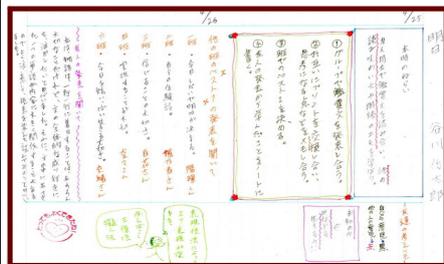
【少人数指導のための工夫】

- 「思考力・判断力・表現力を育む学習活動」を取り入れ、生徒同士が学び合い、高め合う場を設定する。
- 基礎・基本や既習内容を意図的に活用する授業を構想し、知識がしっかり習得されているかどうかを、教師が細かく確認するようにする。
- 授業の最後に「まとめの時間」を確保し、個の思考の振り返りを言語で行う。その後教師が生徒のまとめをチェックし、今後の授業や評価に生かすようにする。

2 実践の概要

(1) 国語科 生徒同士が学び合い高め合う場を設定した、少人数グループでの学習の実践 第2学年 詩「明日」の学習

班に分かれて詩の解釈等について学び合っている様子。みんなでプリントやノートを見せ合ったり、書いてある内容について質問し合ったりすることで、ものの見方や考え方が深まっていく。生徒の様子を見ながら、教師が適切な助言を与え、グループでの学び合いが活性化するようにしている。



授業の最後には、活動を行っただけの状態で終わってしまわないよう、ノートに「友人の発表や文章から学んだこと」などをまとめさせている。授業終了後は、生徒のノートを教師がチェックし、身に付けさせたい力がきちんと身に付いているかどうかを判断し、評価や今後の授業改善に役立てている。

(2) 社会科 学び合いを有効に取り入れ、既習事項を意図的に活用させる学習活動の実践 第2学年 「関東地方 ～さまざまな地域と結びつく人々の暮らし」

関東地方の特色について、各自でまとめた資料をお互いに見せ合い、アドバイスをし合っているところ。「特色を伝えるのに、適切な資料を使用しているか」「他地域との結びつきに触れているか」という2つのポイントを基に、厳しくチェックし合っている。このように、友人の書いたまとめを読んだりチェックし合ったりすること自体が、既習事項を振り返ることにつながる。



生徒たちが作成した新聞形式のまとめである。それぞれがテーマに合った資料を正しく読み取り、相手に正確に伝えるために、まとめ方を工夫して書いていた。グループでまとめを作成したり、完成したまとめにアドバイスし合ったりすることにより、既習事項を振り返りつつ、それらを活用させることができた。教師の方も、グループのまとめや話し合いの様子を見ながら適切な助言や机間指導を行っていくことにより、一人一人に細やかな指導を行うことができた。

3 実践の成果と課題

- すべての教科において「学び合い高め合う活動」を取り入れた結果、生徒同士が互いに試行錯誤しながら考え学び合う姿を見ることができるようになった。
- すべての教科の授業で「まとめの重要性」を認識し、それぞれの教科の特性に合わせたまとめを工夫して行った結果、授業で学んだことをしっかり把握し、言葉で整理できる生徒が増えてきた。
- 授業や宿題・課題等で基礎・基本や既習事項を意図的に活用させるようにした結果、生徒たちが今までの学習を振り返り、活用しようとする姿が見られるようになってきた。
- 既習事項を意図的に活用する授業を行うためには、生徒のレディネスをよりの確にとらえた教材選択・課題設定を行っていく必要がある。今後は、生徒の実態をより細やかに見ながら適切な指導方法を考え、授業改善に生かせるようにしていきたい。

